

侘び寂び男子

令和七年 九月

清風学園茶道部

名簿

高校三年

部長 西之坊

桒原

北村

小山

武田

高校二年

田口

足田

重光

枋谷

野村

蓮

直弥

慧晋

悠人

瑞輝

颯大

柊馬

慶太郎

駿仁

悠斗

高校一年

岡本

岡田

江口

前田

中学三年

小門

郁斗

中学二年

前川

晴翔

中学一年

飛田

大和

吉田

慶

部長として

西之坊 蓮

令和七年度清風学園茶道部の部長として、私はさまざまな経験を積ませていただいた。その経験を通じて、主に二つの能力が養われたと実感している。一つ目は、毎週火曜日のお稽古への部員の出欠連絡を取りまとめていることにより、スケジュールを管理する能力が備わったということだ。もちろんまだまだ至らぬものではあるが、以前の自分と比較すると着実に成長のステップを踏んでいるように感じている。二つ目は、今年の文化祭のために一年を通してコツコツと準備したことによって、いつまでに何を準備すればいいのか、不足しているのは何かなどというような計画を立てる能力が身についたということである。何事にも計画を立てて取り組むことが重要であるため、この経験を将来に活かしたいと思う。茶道部部長として得たさまざまな経験を人生の次のステップに活用していきたいと考えている。最後に、このような貴重な経験を積ませてくださった先生方に深く感謝を申し上げたい。

後輩指導

北村 慧晋

三年生になって、私は最高学年の部員として後輩にお点前の所作を指導するということが多くなりました。その中で私が気をつけていたことは、一度にいろんなことを教えずぎない、ということです。私がこのように指導している理由は、一度に教わるが多すぎると、かえって教わったことが何も覚えられなくなってしまうことになり得るからです。なので私は、まずお点前の基礎となる大まかな流れを教えて、後から細部の指導を行っています。この方法が本当に正しいのかは分かりませんが、私なりの最善の指導法を確立できたように感じています。私たち三年生の後を継いで進級していく後輩たちには、より良い指導法を確立してくれるように期待しています。

心掛け

小山 悠人

茶道部に入った最初の頃、私には茶道のお点前には難しそうなイメージがあり、お点前の順番を覚えることが大事だと思っていました。ですが、小西先生にご指導いただいているうちに、お点前においては所作の意味を考えたり水の流れのようなお点前を行うことが大切であると学ぶことができました。もちろん、流れるようにお点前を行うのにあたっては、しっかりと順番を覚えていることが前提です。なので、私は他の部員がお点前を行い先生にご指導いただいているのをしっかりと目で覚え、全て自分に当てはめた上で自分のお点前に活かすということを経段のお稽古で心掛けています。

心持ち

武田 瑞輝

もし自分がお点前を行うことになったとき、どのような心持ちでお釜に向き合うのか。私は茶道部に所属した三年間で、お茶はその人の心持ち次第で変わること気づいた。例えば私の場合、浮ついた気持ちで茶室にいと、うまくお茶を点てることができなかつた。しかし、心を落ち着かせて茶室に入ると、満悦のお点前を行うことができた。心持ち次第で結果が変わることとはさまざまなことに当てはまるが、茶道もその中の一つであることを、私は三年間の経験で実感することができたと思う。

tea break 茶花

「茶花」は、茶室の床の間を飾るために用いられる花のことです。茶道では、季節感や茶会の趣向に合わせて、自然な姿で生けることが大切にされています。単に花を飾るだけでなく、茶室の空間全体を調和させる要素として、茶花は重要な役割を担っています。

自然な姿

「花は野にあるように」という千利休の教えから、華美な装飾を避け、自然な姿で生けることが基本です

季節感

季節の花を使い、茶会のテーマや雰囲気に合わせて選びます

侘び寂び精神

簡素で質素な美しさを重んじ、静かで落ち着いた雰囲気を演出します

花入れとの調和

花だけでなく、花入れとのバランスも考慮して生けます

家元見学

足田 柊馬

七月、今回私は家元郎を見学させていただく機会をいただき、そこで様々な気づきを得ることができました。

門をくぐってから玄関までの景色や中露地には、人の心を落ち着かせるだけではなく、外の世界から茶道の静謐な世界へと人々を誘う効果があります。

表千家の象徴である茶室不審庵は、普通の畳三枚と四分の三サイズの小さな畳一枚から成っていて、部屋が非常に小さく見えたことが印象的でした。日常生活ではお目にかかることができないような茶道具などを拝見させていただき、心が洗われるような時間を過ごすことができました。

茶道の奥深さ

田口 颯大

「説似一物即不中」これは今回の家元見学のお茶席に掛けられていた掛物で、「何かを言葉で説明しようとしても、言葉にしたら表すことかできない」という意味です。お茶席で、家元の方は「この言葉を何事も体験してみないと分からないものがある」と仰っていました。実際、今回初めて家元見学に参加させていただいたことで、実際のお茶席についていろいろなことを学ばせていただきました。家元では、亭主が客人に茶席で心地良く過ごしてもらおうと工夫が込められているのがしつかりと感ずることができました。今回の家元見学で、改めて茶道の奥深さに触れ、益々日々の稽古に励もうと思いました。

家元での学び

重光 慶太郎

今回表千家家元郎に行かせていただいて、様々なお道具やお茶室を見学させていただきました。家元の建物は、細部に渡り職人のこだわりがあり、部屋の構造も使用用途ごとに造られていて、お庭までにも意味があるといった事を聞き、とてもよく考えられているのだなと感じました。また、家元で使われているお道具は一流の職人の方がお作りになっていて、そちらも拝見させていただきました。茶道のひよこである私でも気づくことができるほどお道具の質が高いと感ずることができました。今回の見学で、家元という特別な場所で、普段のお稽古よりも深い学びを得ることができ、本当に良い経験を積ませていただけたなと実感しています。

column 流派

茶道には、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家をはじめとして、様々な流派がありますが、今日は清風学園茶道部の流派である表千家について紹介していきます。

表千家（おもてせんけ）は、茶道における流派の一つで、千利休を祖とする千家流茶道の本家です。宗家は京都市上京区にあり、現在の家元は15代目猶有斎（ゆうゆうさい）千宗左（せんそうさ）宗匠です。表千家は、古くからの作法を忠実に守り、伝統を重んじることを大切にしています

伝統と格式

古くからの作法を重んじ、伝統的な茶道を伝えています

侘び寂びの精神

質素で簡素な美しさを追求し、侘び寂びの精神を大切にしています

茶室

京都・不審菴に見られるように、自然素材を活かした質素な美しさが特徴です

点前

茶筌を優しく動かし、あまり泡を立てずに点て、まろやかな味わいが特徴です

作法

茶室に入るときは左足から入り一畳六歩で歩く、正座する際は男女ともに膝を開きすぎない、服装は地味だが品のあるものを着るなどの特徴があります

入部してから

前田 凉汰

茶道部に入って、最初は慣れない長時間の正座にとっても苦労したり、他にもさまざまな慣れないことに右往左往したこと、もたくさんありました。ですが、茶道部に通ううちに、「茶道って楽しいな」「新しい自分に出会えた」などと感じ、この部活に入ってよかったと思えるようになってきました。

大茶盛

岡本 英大

今回、私たちは四月の中頃に、奈良県の西大寺にて毎年春と秋に催されている大茶盛に参加させていただきました。西大寺の門をくぐり大茶盛が行われている部屋に入ると雪を連想させる綿をのせた大きな木が目に残りました。これは西大寺が衰退していた時に叡尊さんという僧が復興し、その叡尊さんが初めて献茶したのが雪の降る冬だったので叡尊さんの心を忘れないことを目的として大茶盛の会場を雪景色にしているそうです。お茶が運ばれてくるまでの間、私たちはとてもおいしいお茶菓子をいただき、お坊さんのユニークなお話を聞いてお茶が出来上がるまで待っていました。お茶が出来上がると、とても大きくて重いお茶碗が運ばれてきて隣にいる五人ほどの人たちと回し飲みしました。お茶碗はとても重かったので、落として割ってしまったりどうしようとして緊張しながら飲みました。大茶盛が終わった後はお蕎麦をいただき、境内の散策、護摩祈願をするなど、とても充実した一日を過ごすことができました。

茶道部紹介

清風学園茶道部は、北館二階茶室「清浄庵」で、月三回毎週火曜日に活動を行っています。茶道部は中学高校合同で活動を行っており、アットホームな雰囲気の魅力です。流派は表千家で、高校二年生の時には表千家家元へ見学をさせていただく機会があります。茶道部では、毎年文化祭を目標にしてお稽古に励んでいます。文化祭では、毎年たくさんのお客様がいらっしゃって、お点前披露にとっても緊張するのも醍醐味です。ほとんどの部員が未経験者なので、初心者の方も安心して入部していただけます。入部を検討している方がいれば、是非顧問の先生に声をかけて、体験に来ていただけると嬉しいです!!



お初釜

小門 郁斗

初釜とは新年を迎えて最初に行われる茶会のことを指します。茶道を学ぶ人にとって、一年の稽古の初めとなる大切な会でもあります。新年に初めて釜に火を入れることから『初釜』と呼ばれ、元旦の早朝に汲んだ水(若水)を使ったお茶が振る舞われます。清風学園茶道部では初釜に『花びら餅』というお菓子をいただきます。新年のおめでたい時期にいただくことができる季節限定のお菓子です。初釜に参加する時の服装は普段の茶会よりも格式の高い服装を選ぶのが一般的で、和装であれば訪問着や付け下げ、色無地、小紋柄などが選ばれます。初釜の流れは懷石料理からお濃茶、お薄茶へと、半日ないしは一日かけて行われます。普段とは異なった体験ができます。

前川 晴翔

茶道にはいくつかの所作、礼儀作法があり、一つひとつ丁寧に学んでいく必要があります。お茶を点てる、お茶を飲む、お辞儀の仕方、座り方、立ち方、歩き方などです。誤りなく遂行できた時には大きな達成感と嬉しさがあります。茶道には美と文化を手で感じるができます。掛け軸や茶道具は季節ごとに使用するものが変わります。目で見て、手で触れて、日本文化の奥深さを肌で感じるることができますのは、茶道ならではのことであります。

入部してから

飛田大和

僕は、元々別の場所で茶道を習って
いました。入る前は、「どのぐらい人
がいるのかなあ」「同じ学年の人は入
るのかなあ」などと少し心配してい
ました。
だけど、実際に入ってみると先輩は
優しく教えてくれるし、先生もとて
も丁寧に教えてくださいました。僕
は茶道部で居続けようと思っていま
す。高学年になったら、次に茶道部
に入ってくる後輩に教えられるまで
上達することができるよう頑張ら
ないです。

編集を通じて

桑原 直弥

令和七年度「侘び寂び男子」編集担当の桑原です。部員
達が書いてくれた部誌を見てみると、お初釜やお茶会参
加、家元見学などの様々な行事の様子が思い起こされま
した。茶道部に入った中学三年生の頃がつい昨日のこと
であるかのように、あっという間に四年間の茶道部生活
が過ぎ去ってしまったと実感しています。そんな中、部
誌を編集してきて私が感じたことは、誰にどのようなテ
ーマの内容を書いてもらうのかというのを一人ひとりに
割り振ることが大事だということです。自分にあまり関
係のないようなトピックだと、中々筆が進まないのは誰
でも共通のことだと思います。では、どういうふうに割
り振ればいいのかというと、一人ひとりをよく見てお
き、どういう人であるかを知っておく上でテーマを決め
るのです。茶道では、お点前、お道具、茶室などを「見
る」ということが大切です。私は、この中に「人柄を見
る」ということも茶道だけでなく、あらゆることにおい
て大切なのではないかと、今回部誌を編集していて最も
強く感じました。

HPはこちらから

